公益財団法人 日本野鳥の会
Wild Bird Society of Japan

探鳥会スタッフ通信　2017年12月号

「探鳥会スタッフ通信」は、探鳥会の考え方や様々な運営手法について、全国の連携団体の探鳥会リーダーの皆様と情報交換を行うための通信です。

目 次

◆探鳥会訪問記・・・・・・・・・・・・・・・1
・特集・会員を増やすための探鳥会②
◆ミニニュース・・・・・・・・・・・・・・・14
・南富士支部のイモ煮探鳥会へお邪魔しました
◆探鳥会保険集計結果・・・・・・・・・・・15
（2017年10月分）
◆普及室からのお知らせ・・・・・・・・・・17
・今年度の探鳥会リーダーズフォーラム、参加のラストチャンス！
◆今月の購読者数・・・・・・・・・・・・・19
◆探鳥会スタッフ通信の無料配信について・20
◆編集後記・・・・・・・・・・・・・・・・・20

◆探鳥会訪問記（特集・会員を増やすための探鳥会②）

今月号では、11月3日～11月19日までに6か所で開催された「会員を増やすための探鳥会」（表1）の様子についてご報告いたします。

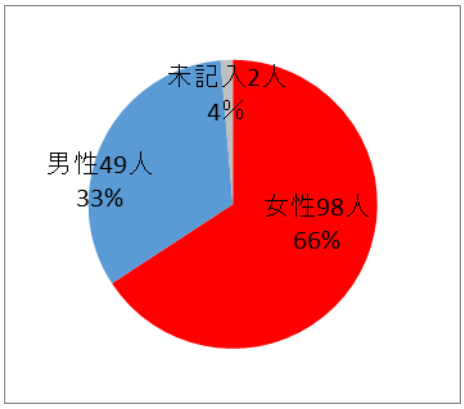
表1.

実施日	支部	実施場所	
2017/11/3(金・祝)	東京	千代田区	日比谷公園
2017/11/4(土)	滝川支部	滝川市	滝川西公園
2017/11/5(日)	宮城県支部	仙台市	青葉山公園
2017/11/12(日)	和歌山県支部	和歌山市	和歌山城公園
2017/11/19(日)	大阪支部	大阪市	長居自然史博物館（長居植物園）
	宮崎県支部	宮崎市	平和台公園

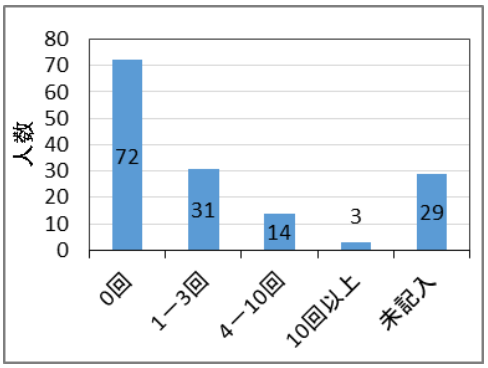
日比谷公園とお濠でバードウォッチング（東京）

【日程】2017 年 11 月 3 日（金・祝）10 時 00 分～12 時 00 分
【場所】日比谷公園（東京都千代田区）
【天候】晴れ
【参加者】149 名（うち一般参加者 104 名）
【リーダー】11 名、財団職員 6 名
【お試し入会】24 名（一般参加者のうち約 16%）
【広報】
　＜インターネット＞財団 HP、財団 Facebook
　＜メール＞一斉メール送信（10/3～6、全国 51,602 名に送信）
　＜チラシ＞探鳥会のご案内（10 月初旬から全国約 80,000 名に送付）

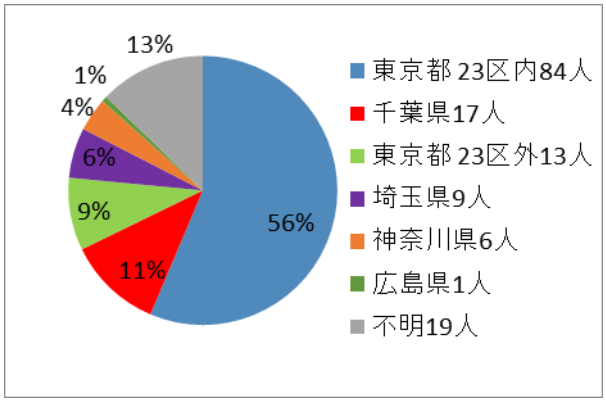
【性別】



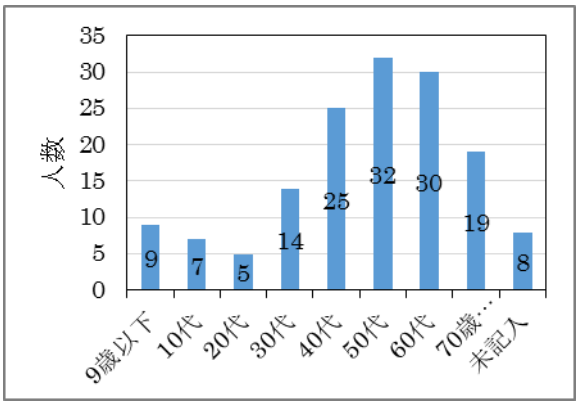
【バードウォッチングの経験回数】



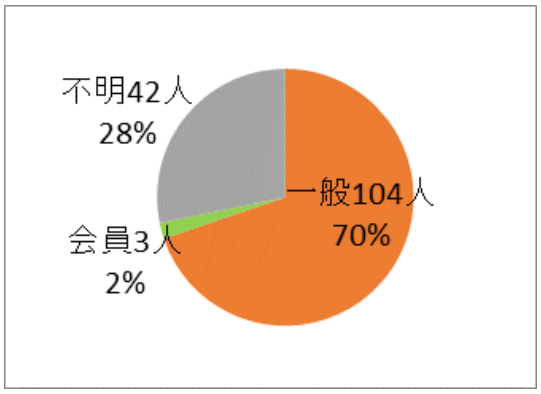
【お住まい】



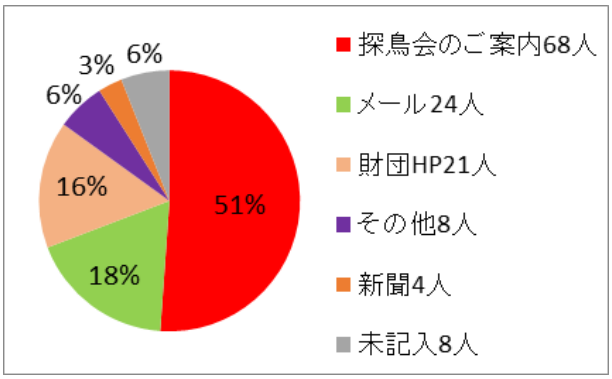
【年齢構成】



【一般/会員】



【何で知ったか】



■探鳥会概要

日比谷公園は、隣接する皇居の森と合わせて都心部の緑のオアシスとして知られています。また、アクセス面はとても良く、最寄駅は３つあり、６路線の鉄道が乗り入れています。視界が開けた場所があるので鳥が見やすいです。

今回の探鳥会のコースは、まず皇居のお濠に出て水辺の鳥を観察し、その後園内の池や草地、林を巡るコースでした。

■探鳥会の様子

昨年（2015 年 11 月）104 名の参加があったことから、今年も参加人数が多くなることが予想されていました。その為、混乱なくスムーズに受付ができるよう、随所で工夫がありました。例えば、受付で列ができないように段ボールとクリップでバインダー式のボードを 20 枚ほど作成してあり、複数人が同時に受付シートへ記入ができるようにしてありました。

また、一般の人の邪魔にならないよう、広い場所を受付後の参加者待機場として利用していました。さらに待ち時間に参加者が双眼鏡の練習ができるよう、鳥のぬいぐるみを少し離れた場所に置き、それを双眼鏡で見るというイベントをリーダーが準備していました。

開会の 10 時になるとリーダーより挨拶と双眼鏡の使い方の説明があり、大きく３グループに分かれ、時間差を作って出発しました。

▲観察の様子

最初のお濠では、視界が開けていて鳥の観察がしやすいため、時間をたっぷり取りました。そのおかげで、アオサギ、ゴイサギ、カイツブリ、キンクロハジロを参加者全員が双眼鏡と望遠鏡でじっくりと観察することができました。双眼鏡や望遠鏡を使って観察するのが初めての参加者からは、

「良く見える！」

「こんな顔しているんだ！」

と次々に歓声が上がり、野鳥観察を楽しく感じている様子でした。

公園内では身近な鳥の代表であるスズメとカワラバトの観察をし、リーダーよりこの２種の歩き方の説明がありました。さらに、手の届きそうなほど近くにいたアオサギは、肉眼で観察をすることができ、その大きさに驚いている参加者もいました。順路の最後の林では、まだ葉が付いている木が多く、双眼鏡を使用しての観察が難しかったです。しかしそんな条件の中でも近くに来たオナガ、ヒヨドリを双眼鏡で観察できるようになった参加者もいました。

観察した鳥はスズメ、カワラバト、ハシブトガラス、メジロ、シジュウカラ、ジョウビタキ、ハクセキレイ、カイツブリ、ヒヨドリ、キンクロハジロ、ゴイサギ、カワウ、コブハクチョウ、アオサギ、オナガの 15 種類でした。

■参加者の声

50 代男性：何度か初心者向け探鳥会に参加したことがありますが、家の近く(千代田区在住)でこんなに鳥が見られるとは思いませんでした。双眼鏡を購入しようと考えており、どの機種にするか悩んでいます。

40 代女性：茨城、千葉の初心者向け探鳥会に何度か足を運んでいます。今回初めて東京に参加したが、人の多さに驚きました。新しい体験ができて楽しめました。また、それぞれの支部の探鳥会にそれぞれの良さがあり、どの支部に入会するか迷います。

母娘で参加のお子さん（10 才くらい女の子）：初めて参加しましたが、身近にいる鳥でも種類が沢山あることに驚きました。今まで知らなかったことが知れて楽しいです。

■まとめ

今回は参加者が 149 名と大人数の探鳥会でしたが、最初のグループと最後のグループの時間差を少なくするために、各グループのリーダーが集合時間５分前に「アラーム設定」をしていたこと、「安全面の管理」、説明時、100 人を越える参加者に聞こえるよう「ハンズフリーの拡声器」を使用したこと、また、今どの鳥の説明をしているのか分かり易いように「鳥の絵」を見せていたことなど各リーダーの工夫が随所に見られ、スムーズに探鳥会を進められていました。

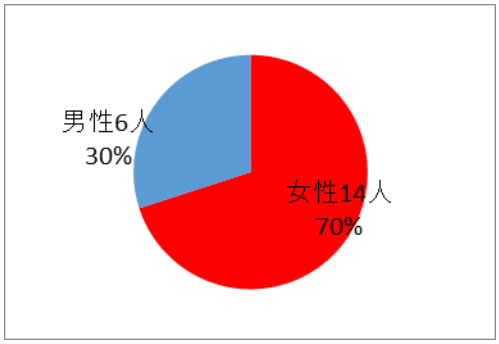
そういった心細やかな工夫により、参加者は安心して、そして夢中になって鳥を観察し、楽しんでいる姿が、そこかしこで見られました。

（普及室／染谷美恵）

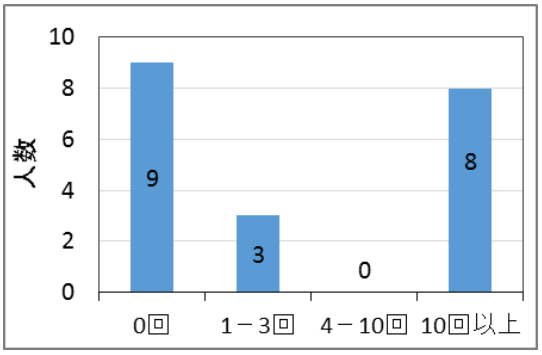
冬を迎える準備をする野鳥に会いに行こう！（滝川支部）

【日程】2017 年 11 月 4 日（土）10 時 00 分～12 時 00 分
【場所】滝川西公園（北海道滝川市）
【天候】晴れ
【参加者】20 名（うち一般参加者 11 名）
【リーダー】6 名、財団職員 1 名
【お試し入会】0 名
【広報】
＜インターネット＞財団 HP、財団 Facebook
＜メール＞一斉メール送信（10/3～6、全国 51,602 名に送信）
＜チラシ＞探鳥会のご案内（10 月初旬から全国約 80,000 名に送付）
＜新聞＞プレス空知（10/24）
＜市報＞広報たきかわ（11/1）

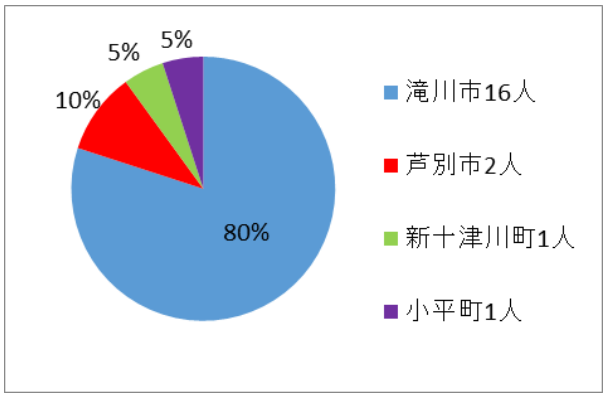
【性別】



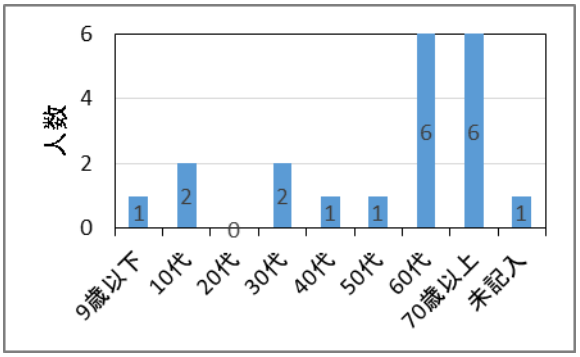
【バードウォッチングの経験回数】



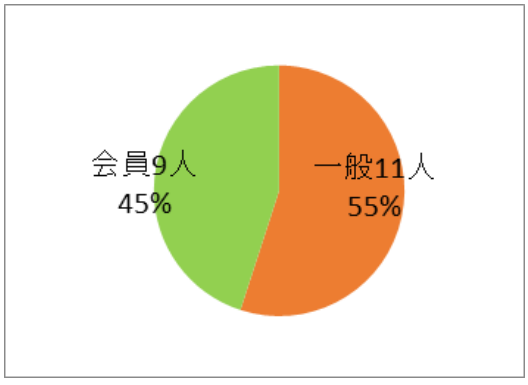
【お住まい】



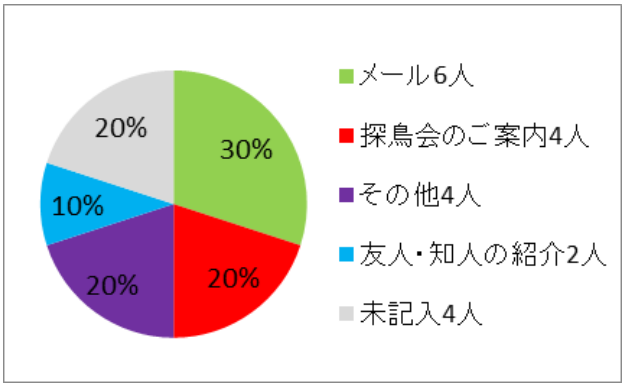
【年齢構成】



【一般/会員】



【何で知ったか】



■探鳥会の概要

今年度から初参加の滝川支部。前夜の雪で心配された探鳥会でしたが、次第に空が明るくなって晴れ間が出て、開始時間の 10 時にはうっすらと日差しが出てきました。

今回の探鳥会の会場となった滝川西公園は、滝川市のはずれにあり、市民なら誰でも知っている石狩川の堤防沿いの公園です。支部ではこの公園で１６年前から探鳥会を実施しています（今年が１７回目）。

新聞に告知記事が出たにもかかわらず、事前の問い合わせがなく、支部長の越後さんから「果たして人が来てくれるだろうか？」と不安げな声がありましたが、開始 15 分くらい前になるとパラパラと駐車場に車が集まりはじめました。

参加者が受付の場所まで歩いてくると、女性のリーダーがすぐに歩み寄って、満面の笑顔で話しかけます。その雰囲気がとてもフレンドリーで、それだけで参加者の不安が吹き飛び、場の空気が和んでいくのがわかります。滝川支部のリーダーは､男性２人に対して女性は４人。会員も８割方が女性だそうです。他の多くの支部と男女の比率が逆転していることが滝川支部の雰囲気を特徴づけているということが実感された場面でした。

■探鳥会の様子

参加者は概ね熟年世代の男女が中心でしたが、中には小学校中学年の親子連れ、幼稚園と小学生の親子連れの２家族が参加されていました。支部長のあいさつの後、まずは双眼鏡の使い方の説明です。受付で双眼鏡を貸し出していた感触から、双眼鏡を使い慣れない方が相当数いらっしゃるご様子でした。使い方の説明に合わせて遠くの目標物を決めて、双眼鏡を見る練習を丁寧におこないます。この練習でつまずいてしまうと「自分は不器用だから見ることができない」と思いこんでしまって、それ以後の探鳥会へのモチベーションがなくなってしまいます。ですから、双眼鏡の扱い方の説明はできるだけ簡潔にする必要があります。この日は、まとまった時間をとっていただいたおかげで全員の方に一通りの説明を浸透させることができました。

コースを歩き始めて、カラマツ林の中でハシブトガラスやカケスを見ようとしますが、30 人規模で初心者が多いとなかなか見ることができません。カラの混群に遭遇したので双眼鏡で見ようとしますが、動きが早くてなかなか視野に入りません。

「うーんバードウォッチングは難しいなあ。」という感想が出始めていて、少し焦りを感じ始めたころ、ちょうど見やすい場所にアカゲラが現われて、皆さんでじっくりと見ることができました。アカゲラは遠くからでも目立つ大きさと背中の模様、適度に動いてくれるので肉眼でとらえやすい鳥です。枝へのとまり方や、樹の幹をつついている様子を見ることができ、皆さん歓声を上げていました。その後探鳥会も後半に差し掛かってきたころに、エナガの群れがやってきました。動きが速い鳥でしたが、双眼鏡に慣れてきた参加者も何とか見ることができていたようです。

ある程度、カラマツ林で小鳥たちを見た後、越後さんから

「小鳥たちは林の中で何を食べていると思いますか？」

と問いかけがありました。そして足元のカラマツの松ぼっくりを拾い上げ、なかからカラマツの種を引き出し、

「これを食べていたんだよ。」

と見せてくれました。子どもたちも足元に落ちている松ぼっくりを拾って、種を引き出してみます。こうした体験を織り交ぜることで、光学機器を使った間接的な観察に終始してしまいがちなバードウォッチングに手ざわりと実感が加わってきます。その他では子どもたちに人気の楓の種で遊び、とても楽しい探鳥会だったと思います。

■参加者の声

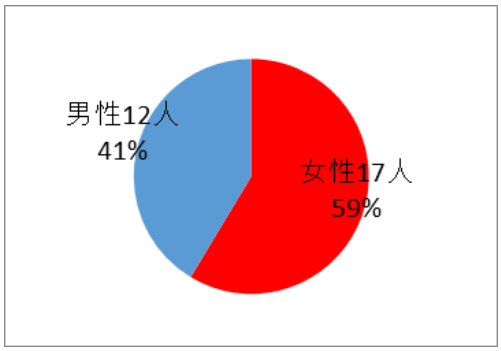
今回小学校 ４ 年生の女の子が参加していましたが、お母さんから「実はうちの子は野鳥が大好きで、将来野鳥に関係した仕事に就きたいといっているんですよ。」と話しかけてくれました。これを聞いてうれしくなり、「ぜひ支部の活動に参加し続けてください。野鳥の会の支部で活動の経験を積んでプロになる人もいますよ。」とアドバイスしました。これから興味の幅が広くなり、数年先には違うことを考えているかもしれませんが、こういう子どもたちがいるということに頼もしさとうれしさを感じた探鳥会でした。

（普及室／箱田敦只）

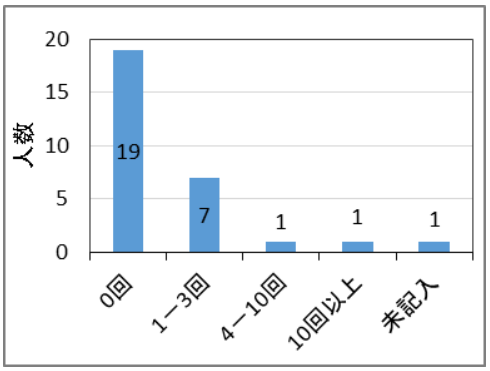
はじめてのバードウォッチング in 青葉山（宮城県支部）

【日程】2017 年 11 月 5 日（日）9 時 30 分～11 時 30 分
【場所】仙台市博物館周辺および青葉山公園（宮城県仙台市）
【天候】晴れ
【参加者】29 名（うち一般参加者 24 名）
【リーダー】11 名（リーダー4 名、スコープ 4 名、遊軍 2 名、財団職員 1 名）
【お試し入会】11 名（一般参加者のうち約 46%）
【広報】
　＜インターネット＞財団 HP、財団 Facebook
　＜メール＞一斉メール送信（10/3～6、全国 51,602 名に送信）
　＜チラシ＞支部作成のチラシ、探鳥会のご案内（10 月初旬から全国約 80,000 名に送付）

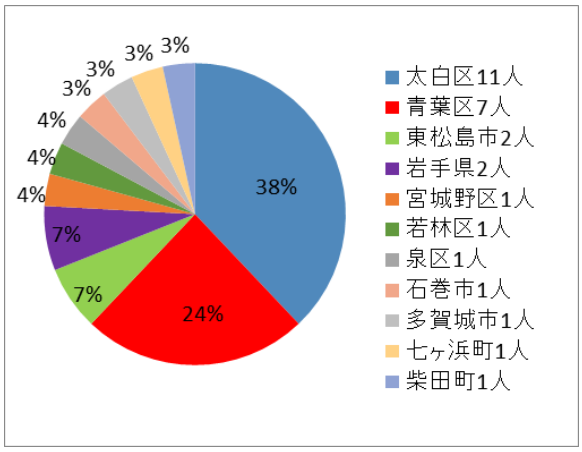
【性別】



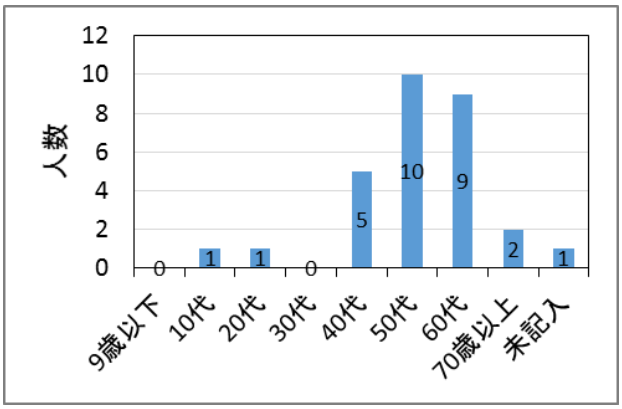
【バードウォッチングの経験回数】



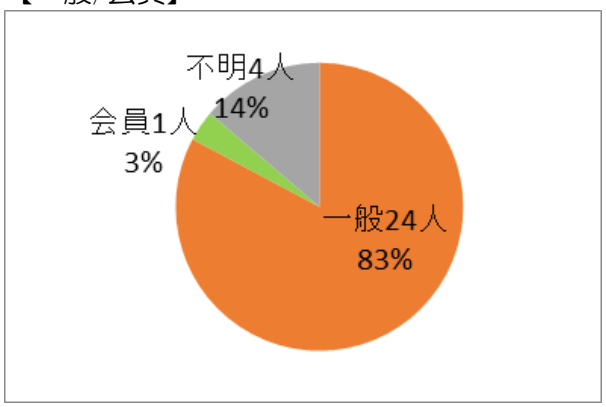
【お住まい】



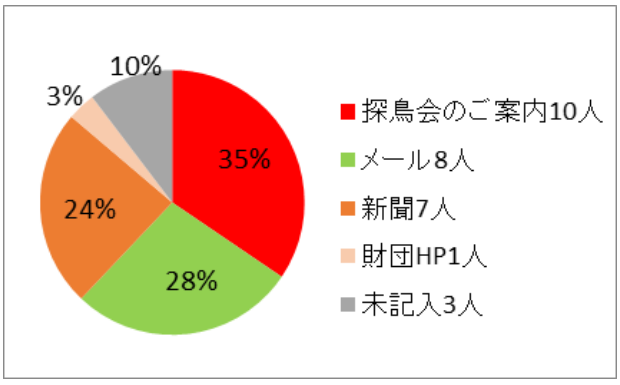
【年齢構成】



【一般/会員】



【何で知ったか】



■探鳥会の概要

宮城県支部の会員を増やすための探鳥会は、昨年に引き続き２年目。昨年は、コースが長すぎたことで終了時間が超過し、しっかりとお試し入会のご案内をすることができなかったという反省がありました。今年はその反省点を踏まえてどのような展開になるのかが焦点となっていました。

朝からの快晴で、開始 15 分前くらいから参加者の方が集まり始めました。今回は事前申込で、32 名の方が申し込まれています。お隣の日本野鳥の会もりおかからも幹事の方が飛び入りで参加されました。もりおかでは次年度以降に会員を増やすための探鳥会への参加を検討されているとのことで、今回はそのための下見とのことでした。

宮城では、受付で双眼鏡を貸し出したら、すぐにスタッフが近寄ってその場で双眼鏡の使い方を説明します。そのためにスタッフが２人ほど受付横で待機しています。こうすると、一斉に説明するよりも手間と人手がかかりますが、マンツーマンで対応できるため、確実に双眼鏡を扱えるようになります。また、探鳥会が始まる前に練習することができて、練習時間が長くとれるという利点もあります。

考えてみれば、双眼鏡のフィッティングは、靴やメガネのフィッティングと同様、本来は個別に対応することが望ましいのかもしれません。人により顔の形や目の幅が異なりますし、視力も異なります。また裸眼、メガネ、コンタクトなど目のコンディションも人それぞれです。ほんのちょっとしたコツで見えたり見えなかったりします。見えるか見えないかは、その後の探鳥会の可否を大きく左右するので、より確実な方法でケアすることが重要だと思いました。

■探鳥会の様子

始まりのあいさつに続き、参加者を４班に分けて、1 班あたり 7～8 人のグループにします。そしてそれぞれの班に、経験豊富なリーダーが１～2 人つきました。私が同行した班では、女性リーダーが和やかな雰囲気を醸し出しながら解説してくださいました。お濠のそばを流れる広瀬川沿いの道を歩きながら、まずは双眼鏡に慣れていない初心者でも簡単に観察することができるマガモやコガモ、ダイサギを観察し、参加者が慣れて自分で野鳥の存在に気づき始めるころには、草原の中の電線に止まったモズやエナガの群れを観察しました。

ハシブトガラスが柿の木をつついている様子をじっくりと観察し、飛び去ってからその柿の木の下へ行き、落ちている柿の実を見てみました。すると、くちばしで実をこそいて食べていた痕がはっきりとわかります。そこで、参加者の中の一人はその柿の実をかじりましたが、すぐに顔をしかめて「しぶ柿だ」と吐き出しました。そこから、冬の間の鳥の食料の話、鳥の味覚の話、種の分散の話に広がり、皆で考えながら観察するという雰囲気で探鳥会は進んでいきました。

探鳥会の終盤には、広瀬川の河岸段丘の崖にある営巣地周辺のハヤブサを望遠鏡で観察し、ここで全員の集合写真を撮影しました。この写真は、後日探鳥会終了後に支部の担当者から参加者にメールでお送りしています。

鳥合わせを行うゴール地点では、ジョウビタキがすぐ近くまでやってきて、しばらく私たちの周辺を鳴きながら移動していました。このころには皆さん双眼鏡の扱いにも十分に慣れてきて、自分で観察を楽しむことができていました。

鳥合わせの後、お試し入会の説明を行いましたが、探鳥会終了後すぐに人だかりができ、たちまち手渡す支部報最新号が不足し、お釣りも足りなくなってしまいました。昨年とは全く異なる参加者の動きです。結局この日のお試し入会者は、非会員 24 名中 11 名でした。ハンディ図鑑も持参した 5 セットがたちまち売り切れて、双眼鏡の購入を希望する方からの問い合わせもいくつかあり、参加者が確実に次のステップに進みたがっている様子を見て取ることができました。

解散後に、スタッフで昼食をとりながら反省会を行いました。そこで、今回お試し入会がこれほど多かった理由をいろいろと推測してみたところ、次のような意見がありました。

〇探鳥会の中で参加者同士の交流を図ることができてアットホームな雰囲気をつくれた。
〇コースを短縮したことにより時間の余裕が生まれ、お試し入会についてしっかり説明することができた。
〇バードウォッチングの楽しみ、やり方、入会することでどんなよいことがあるかについて、探鳥会の中で親切に説明していた。

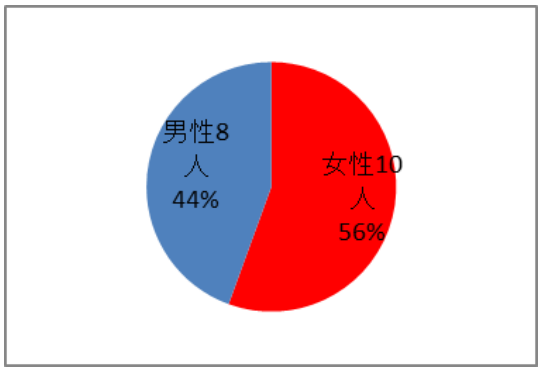
私は昨年に引き続き宮城県支部の探鳥会に同行させていただいて、今回の結果もさることながら、昨年の反省を生かして、改善するべきところを改善して、一歩一歩確実に前進されていることが素晴らしいと思いました。

（普及室／箱田敦只）

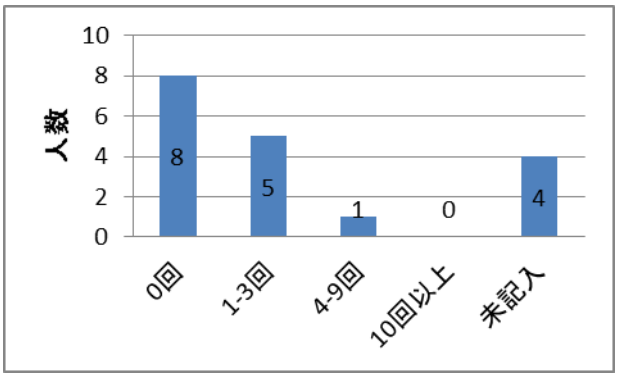
和歌山城公園・ビギナーズ探鳥会（和歌山県支部）

【日程】2017 年 11 月 12 日（日）14 時 00 分～14 時 45 分
【場所】和歌山城公園（和歌山県和歌山市）
【天候】晴れ
【参加者】18 名（すべて一般参加者）
【リーダー】５名、財団職員 1 名
【お試し入会】０名
【広報】
＜インターネット＞財団 HP
＜メール＞一斉メール送信（10/26、和歌山在住の非会員 242 名に送信）
※「和歌山公園動物園・市民 ZOO フェスティバル 2017」の各種広報にイベント内企画として掲載あり。

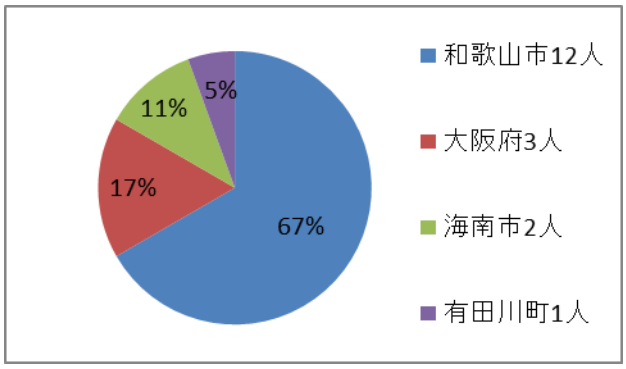
【性別】



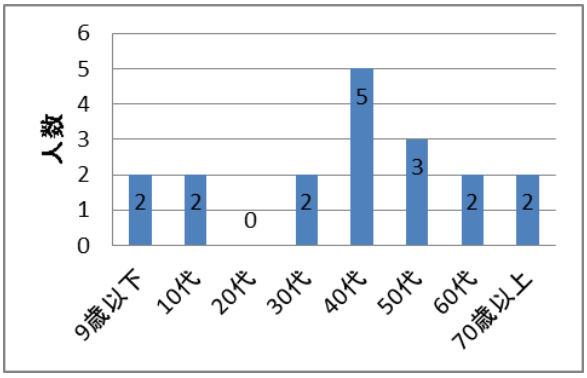
【バードウォッチングの経験回数】



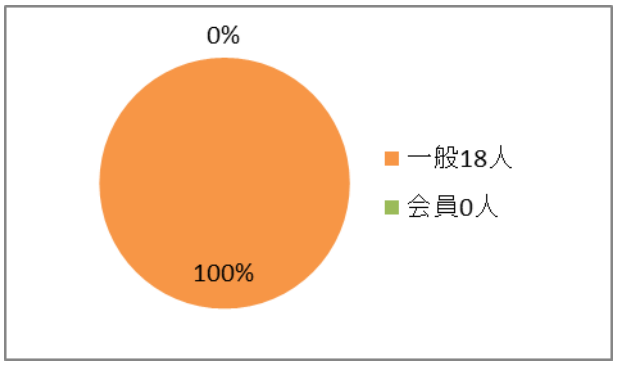
【お住まい】



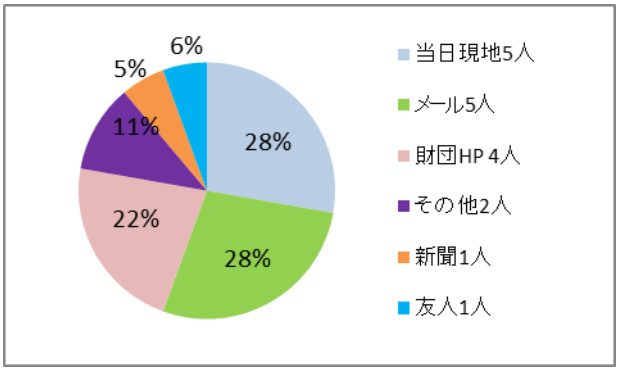
【年齢構成】



【一般/会員】



【何で知ったか】



■探鳥会概要

和歌山市の中心地に位置する和歌山城公園内には、全国でも珍しいお城の敷地内にある動物園があり、多くの市民がサポーターやガイドとして動物園の運営に積極的に係っています。毎年秋には和歌山市や協力団体の協働で「市民 ZOO フェスティバル」が開かれ、一大イベントとなっています。

今回の探鳥会はこのイベント内企画の一つとして和歌山県支部が実施されました。主イベントの広報に伴って広くマスコミに取り上げられたようで、大阪から足を運んでくださった方もありました。短時間のミニ探鳥会でしたが、都会でもたくさんの鳥たちに出会えることを実感する機会になりました。

■探鳥会の様子

当日は穏やかに晴れ、市民 ZOO フェスティバル会場はたくさんの来園者で賑わっていました。お昼を過ぎから探鳥会集合場所になっている支部展示ブースに「探鳥会に来ました！」と声をかけて下さる方もあり、フェスティバルも一緒に楽しんでいる様子でした。集合 20 分前にはリーダーが主催者からハンドマイクを借りて呼び込みも実施しました。

集合場所に次々と集まってくる参加者を、受付のリーダーたちが明るくリラックスした雰囲気で出迎えます。

挨拶とコース説明のあと、双眼鏡の使い方を説明されました。当日のアナウンスを聞いて参加された方も多く、貸し出し双眼鏡がとても役立っています。初めて触る双眼鏡におっかなびっくりだった参加者もリーダーの丁寧な説明で少しずつ慣れてきたようです。

ハシブトガラスやトビを観察しつつ、林内の小鳥を観察できる場所を目指しますが、なぜか小鳥がいない…、と、リーダーがすぐ頭上を飛ぶハイタカを見つけました。参加者は思わぬ「タカ」の出現に大興奮。樹冠上空を飛ぶ姿をほとんどの参加者が見ることができたようです。ハイタカを警戒して小鳥が姿を見せないこと、尾が長く見えること、冬場はこのような公園でも観察できる機会があることなど、リーダーの説明に参加者は興味深げに聞き入っていました。

ビンズイやハクセキレイ、カワラヒワを観察しながらお濠に向かい、カモ類やカイツブリ、カワセミを観察することができました。

「カワセミってこんなところにもいるんですね。」
との参加者の声に、
「意外と人のいる近くのため池や川でも観察できます。フンで白くなっているのがお気に入りの場所なので、それを手掛かりに探してみてください。」
と、次の観察へつなげる声かけも巧みです。

約 45 分の駆け足探鳥会でしたが、初めての方、急遽参加された方には適度な時間だったようです。カワセミやハイタカなどハイライトにも恵まれ、参加者は大満足の様でした。

▲園路からハクセキレイを観察

■参加者の声

70 代女性：双眼鏡や望遠鏡を使って初めて鳥を観察することの楽しさを知りました。初心者向けの双眼鏡を購入したいです。

10 代女性：案内メールを見て参加しました。まだバードウォッチングをはじめて間がないですがもっと参加したいです。

■まとめ

短時間ながらメリハリある探鳥会運営をされたリーダーの方々が素晴らしかったです。

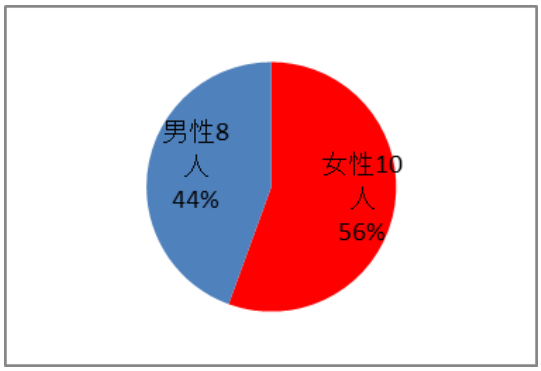
残念ながらお試し入会はありませんでしたが、また参加したい、双眼鏡が欲しい等の声を多数頂きました。イベント内企画としてのコンパクトな探鳥会でも十分に参加者の興味を次に繋げることができると感じました。このようなケースでのお試し入会勧誘の工夫が課題だと考えます。

（普及室／浅野綾子）

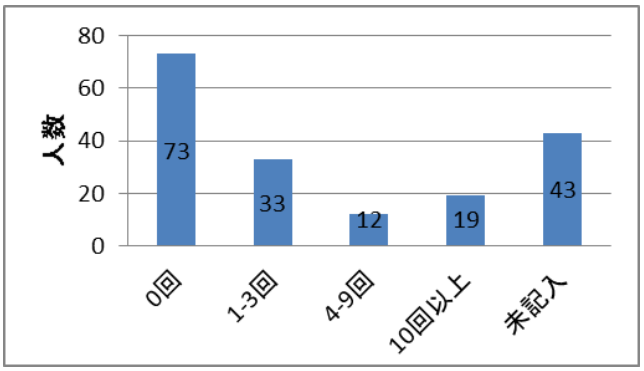
はじめての鳥見たい（隊）！ in 自然史フェスティバル 2017（大阪支部）

【日程】2017 年 11 月 19 日（日）①10 時 30 分～12 時　②13 時 30 分～15 時
【場所】大阪市立自然史博物館・長居植物園（大阪市東住吉区）
【天候】晴れのち曇り
【参加者】179 名（午前 104 名、午後 75 名）
【リーダー】23 名（午前 14 名、午後９名）、財団職員２名
【お試し入会者】２名（一般参加者のうち約 1%）
【広報】
　＜インターネット＞財団 HP、財団 Facebook、支部 HP
　＜メール＞一斉メール送信（10/３～6、全国 51,602 名に送信）
　＜チラシ＞探鳥会のご案内（10 月初旬から全国約 80,000 名に送付）
　※「大阪自然史フェスティバル」の各種広報に掲載

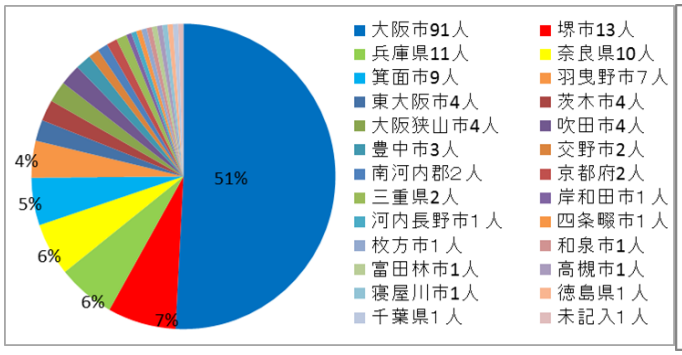
【性別】



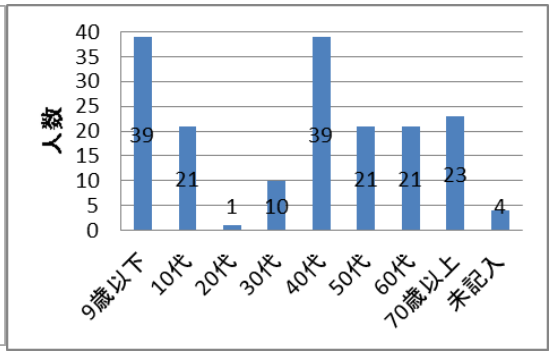
【バードウォッチングの経験回数】



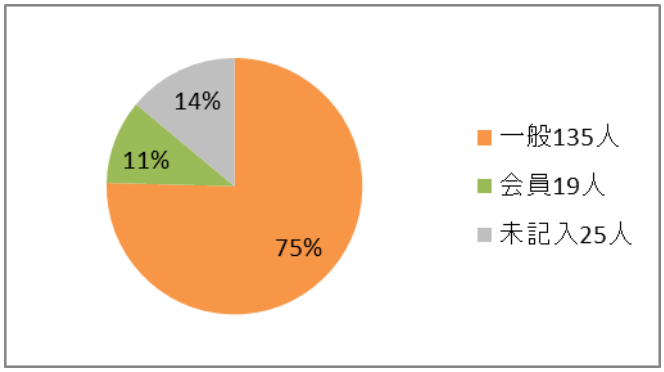
【お住まい】



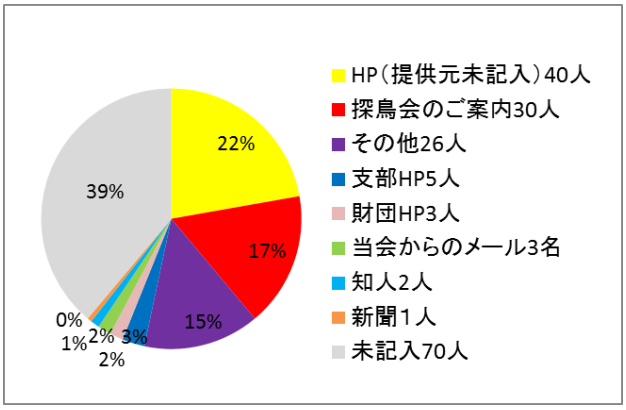
【年齢構成】



【一般/会員】



【何で知ったか】



■探鳥会概要

大阪市南部に位置する長居公園は、数多くの話題に富んだイベントが開催される総合公園です。大阪自然史博物館もその主要施設として多くの市民が利用しています。中でも大阪周辺の自然に関わる様々な団体が集まり、自然のおもしろさ・活動の楽しさを伝える場として毎年開催されている「大阪自然史フェスティバル」は、特に自然に関心の高い層が参加するイベントとなっています。

大阪支部は毎年このイベントにブース出展し、近年はタイアップ企画の初心者向け探鳥会も、隣接する長居植物園で実施されています。今年度はこの企画を「会員を増やすための探鳥会」として取り組みました。

開催２日間で延べ来場者数２万人を超える大型のイベント内での当日受付型探鳥会は、午前、午後の２回、それぞれ各先着 50 名、所要時間 1 時間 30 分を想定して実施されました。午前の回の様子を中心にお伝えします。

■探鳥会の様子

前日の冷たい雨も上がり、10 時前にはイベント会場への来場者が目に見えて増えてきました。開始 30 分前に主催者スタッフがハンドマイクと探鳥会のタイトルボードを持って会場内を巡回アナウンスし始めると、あっという間に 100 人以上の参加者が集まりました。大阪支部では昨年までのこのイベントでの探鳥会の経験から５枚の名簿記入ボード、10 人以上のリーダーと受付スタッフを投入して対応。用意した配布資料数、リーダー数から対応可能と判断して希望者すべてに参加して頂きました。大阪支部 80 周年の記念缶バッジを参加者全員にプレゼントすると、多くの方がすぐにつけて下さり大変に好評でした。

大きな混乱なく受付が終了し、定刻通りに探鳥会が始まりました。挨拶、コース説明のあと、リーダーが 2~3 人ずつ付くように参加者を５つのグループに分けました。それぞれのグループでもリーダーはしっかり自己紹介をしています。大所帯のグループでは、参加者がはぐれることを防ぐために引率するリーダーを覚えてもらうことがとても重要のだな、と改めて感じました。

グループ毎に長居植物園の大池の周りを観察しながら巡ります。大池の水辺ではホシハジロ等のカモ類やオオバンをじっくり観察することができました。カワセミが現れた時には、スコープを覗いた参加者から
「かわいい！」
「すごくきれい！」
「こんな都会でもカワセミが見られるなんて知らなかった。」
と感嘆の声が次々と上がっていました。

複数のグループが一つの観察場所に集中しないように分散してコース移動するなど、きめ細かにリーダーが気を配っておられました。

集合地点に戻り、簡単な鳥合わせ、支部の活動紹介、お試し入会のお誘いをして 1 時間 30 分の探鳥会が締めくくられました。短時間でしたが初心者に観察しやすい鳥に焦点を絞ったことで、参加者はとても楽しい時間を過ごせたようです。

▲「今見た鳥はこれかな？」図鑑で確認中

■参加者の声

30 代女性：会場でのアナウンスを聞いて参加しました。こんなに鳥が近くで観察できるなんて知りませんでした。楽しかったです。

70 代女性：リーダーの方が親切に教えてくれたのがとても良かった。また参加したいです。

■まとめ

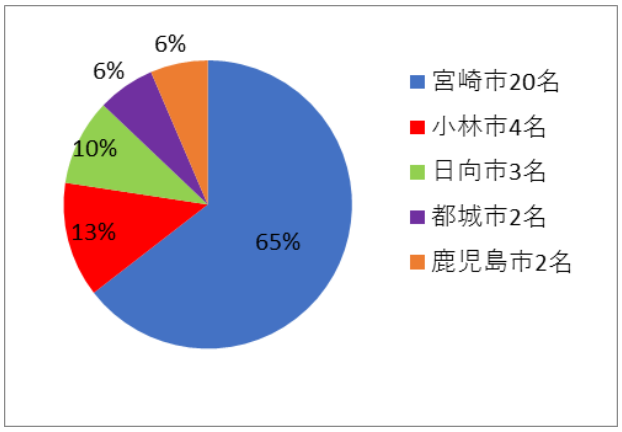
大人数の探鳥会にも関わらずスムーズに運営されたのは、豊富な探鳥会運営経験に裏付けられた綿密な用意があるからだと感じました。イベントの喧騒のためリーダーの声が届きにくい場面があり、ハンドマイクの必要性をリーダーの皆さんも指摘しておられました。午前の回の反省を活かして午後の鳥合わせはグループ毎に実施するなど、臨機応変で素早い対応が素晴らしかったです。

このような大型イベントでの探鳥会では、じっくりとお試し入会の勧誘をするよりも、次の観察会に足を運んでもらうためのきっかけづくり、情報提供に重点を置いた工夫が必要になると思いました。様々な課題に気づくと同時に、普段の初心者向け探鳥会の参加者とは違う層へのアプローチの可能性を大いに感じることができました。　　（普及室／浅野綾子）

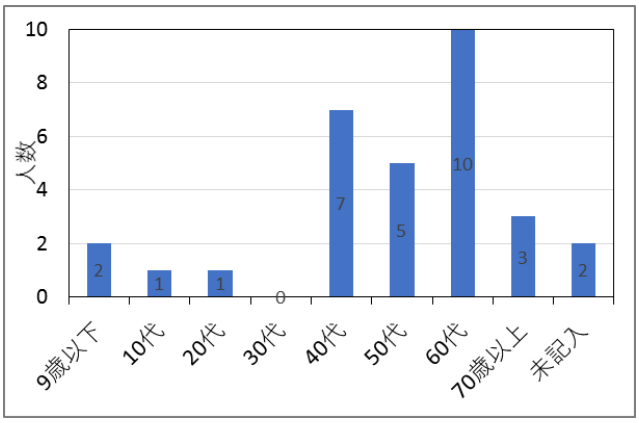
ビギナー向け探鳥会 in 平和台公園（宮崎県支部）

【日程】2017 年 11 月 19 日（日）9 時 00 分～11 時 30 分
【場所】平和台公園（宮崎県宮崎市）
【参加者】31 名（うち一般参加者 21 名）
【リーダー】７名、財団職員 1 名
【お試し入会者】５名（一般参加者のうち約 24%）
【広報】
　＜インターネット＞財団 HP、財団 Facebook、支部 HP
　＜メール＞一斉メール送信（10/３～6、全国 51,602 名に送信）
　＜チラシ＞探鳥会のご案内（10 月初旬から全国約 80,000 名に送付）

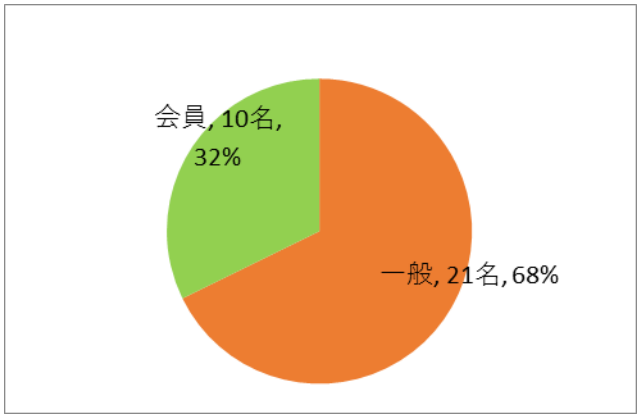
【お住まい】



【年齢構成】



【一般/会員】



※参加者全員が回答したアンケート項目のみ掲載しています。

■探鳥会の概要

　宮崎県支部は、会員の減少に歯止めをかけようと、昨年から会員を増やすための探鳥会に参加されて、今年で２年目となります。

　支部の課題として、会員数もそうですが中心になって動くことができるスタッフが十分でないため、事務局の運営を手伝ってくれるスタッフを増やすことも同時並行で考えていかなければならないとのことでした。会員を増やすための探鳥会が、こうした課題にも間接的に効果をもたらすことができないか、今後考えてみたいテーマの一つだと思いました。

■探鳥会の様子

　探鳥会の会場は昨年と同じ平和台公園です。この公園はアップダウンの少ない自然観察路が整備されており、森、池、湿地など多様な環境を楽しむことができます。

　集合場所では、参加者の目印になるようにと、以前に支部で制作されたのぼり旗を設置しました。そののぼり旗を目指して、開始 30 分くらい前から少しずつ参加者が集まってきます。見たところ、会員の方とそうでない方が入り混じっており、会員の方には従来通りのリスト型の参加者名簿、非会員の方には今回普及室から

ご提案した「カード式名簿」に記帳していただきました。

▲のぼり旗

「カード式名簿」は、名前の他に住所と電話番号、メールアドレスを記入する欄が設けてあり、探鳥会終了後も継続して探鳥会の案内をお送りできるようにと日本野鳥の会栃木で考案されたものです。横目で拝見していると皆さん抵抗なく記帳してくださっているようで少しホッとしました。

また今回の探鳥会には、お隣の日本野鳥の会鹿児島の幹事の方がお二人参加されていました。翌月に行われる「会員を増やすための探鳥会」の参考にしたいということでしたが、事前にいろいろと支部のお考えなどをお聞きすることができたことは思わぬ収穫でした。

開始時間になり探鳥会が始まり、一通りのオリエンテーションを済ませた後、女性リーダーから次のような声掛けがありました。

「野鳥観察の前に、皆さんの感覚を開いてからスタートしたいと思います。２分間目を閉じてみてください。まわりの音を聞いて、聞こえた音を心の中で数えてください。」

参加者の皆さんは呼びかけに応じてその場で目を閉じます。すると、広場の向こうにいる家族連れの声、遠くのオートバイの音が聞こえてきます。そして風の音が聞こえてきます。風の音もよく聞くと、ざわざわという木の葉が揺れる音とひゅうひゅうという空気が流れる音があることにも気づきます。近くの林からはハシブトガラス、ヒヨドリ、シジュウカラ、メジロの声が聞こえ、頭の中には枝から枝へと移動している彼らの姿が浮かんできました。

バードウォッチングは鳥の気配を感じながら歩きます。また、鳥のいる風景をイメージしながら、腰を落ち着けてじっくりと探すことも大切なことです。このプログラムは、鳥を探すコツを体験的に伝える効果があると感じました。

その後、歩き始めてすぐに、ヤマガラ、メジロ、エナガの群れと遭遇しました。しかし、先ほど初めて双眼鏡を手にした参加者には、まだ双眼鏡で鳥を捉えることができません。その一方少し経験のある方は何とか双眼鏡でとらえることができて、歓声を上げています。こういうとき、初心者向け探鳥会では一番焦る瞬間です。見えない人は見て楽しんでいる人をしり目に、「やはり自分にはバードウォッチングは難しいんだ。」と意欲をなくしてしまうことがあるからです。他の人は見えているのに自分だけ見えない、というのは疎外感を感じます。そこで、こんなアドバイスをします。

「いったん双眼鏡を下ろしましょう。そして肉眼でしっかりと鳥の姿を見付けてください。目で確認できたら、首を動かさず、視線を外さないようにして双眼鏡をあてがってみてください。」

このアドバイスで何人かの方は、ようやく姿を見ることができました。

できることならば最初に観察する鳥は水鳥のようにあまり動かないで、初心者でも簡単に双眼鏡で見ることができる鳥がよいと思います。とはいってもそんなに都合よくはいかないのが生の自然を相手にする探鳥会です。

▲ハトがタカに襲われた後を解説するリーダー

そうこうするうちに、林を抜けて池の周囲を巡るコースに出てきます。そこで、ようやくキンクロハジロ、ホシハジロ、アオサギ、ゴイサギなどの水鳥を観察することができました。参加者も次第に双眼鏡の扱いに慣れてきて、バードウォッチングを楽しみ始めています。そして一通り水鳥を見て目が慣れてきたところで、ゴール地点付近でイカルを観察しました。背の高

い針葉樹の枝の中、周囲の枝の影になって見づらい状況でしたが、まだ見えていなさそうな様子の人には声をかけて、なんとか全員の方が見たことを確認しました。

その後、鳥合わせを行うまでの間に、女性リーダーの方の心遣いで温かいコーヒーとお菓子がふるまわれました。少し冷えてきた体に暖かいコーヒーがしみわたるようで参加者は大喜びでした。コーヒーを飲みながら、鳥合わせと支部の活動の紹介、お試し入会のご案内をおこなって探鳥会は終了。この日は、５名の方がお試し入会してくださいました。遠方から参加してくれたご家族が入会してくれましたが 7 歳の女の子を会員として登録したいとの事で、話題になりました。この日入会して頂いた５名の方は、その後の探鳥会に殆どが継続参加してくれているそうです。

■参加者の声

40 代くらいのご夫婦：近所に住んでいていつも散歩コースとして歩いている。探鳥会は今回で２回目。前回カワセミを見ることができて感激して今回も参加してみた。友達から誘われて庭にみかんを置いて見たことがきっかけ。

（普及室／箱田敦只）

◆ミニニュース

南富士支部のイモ煮探鳥会へお邪魔しました

11 月 26 日（日）に南富士支部で開催されたイモ煮探鳥会へお邪魔しました。

今回の探鳥会は「丸火自然公園（イモ煮）ー冬鳥来たかな、鍋もあるよ！両方楽しめる南富士支部」と題した、30 年続く支部の名物行事。60 名以上の参加がありました。

午前９時から丸火自然公園（富士市）で探鳥を楽しんだ後、お待ちかねのお昼です。ここから参加する方も加わり賑わいが増す中、支部有志の方々が準備してくれたイモ煮や焼き餅を参加者全員で楽しみました。イモ煮会場の横には、日曜大工が得意な支部の方が製作された展示用パネルを設置。そのパネルには販売カタログや図鑑、野鳥写真などが手に取って見られるようにし、また支部オリジナルの手ぬぐいやグッズを販売していました。

お腹が満たされたところで、支部の方からのお声掛けで普及室・箱田によるトコロジストのミニ講座も行いました。熱心にメモを取られる方々もいて、普段歩いている場所の大切さを感じて頂けたのではないかと思います。

支部長の影山さんは「何よりも自慢なことは、イモ煮の味でも参加者数の多さでもなく、企画が毎年続けられる（支部）会員のチームワークの良さです」とお話しして下さいました。

一緒に食べることをきっかけとして、コミュニケーションが生まれ、人の輪が広がっていくのだと思いました。

皆さんの名物探鳥会、ぜひお知らせ下さい！

▲イモ煮スタッフ集合写真

（普及室／関祥子）

◆探鳥会保険集計結果（2017 年 10 月分）

10 月は 68 支部からご報告をいただき、計 214 回の探鳥会が開催され、のべ 4,225 人が参加されました。

表 2. 10 月の探鳥会保険集計結果（2017 年 10 月 15 日現在）

支部	開催回数（回）	参加者数		スタッフ数（人）	合計人数（人）
		会員（人）	非会員（人）		
オホーツク支部	1	17	1	1	19
根室支部	–	–	–	–	–
釧路支部	–	–	–	–	–
十勝支部	–	–	–	–	–
旭川支部	0	0	0	0	0
滝川支部	1	16	3	1	20
道北支部	0	0	0	0	0
江別支部	–	–	–	–	–
札幌支部	3	82	27	7	116
小樽支部	2	9	5	2	16
苫小牧支部	–	–	–	–	–
室蘭支部	2	25	4	6	35
函館支部	–	–	–	–	–
道南桧山	2	14	14	6	34
青森県支部	–	–	–	–	–
弘前支部	3	24	0	3	27
秋田県支部	3	28	6	3	37
山形県支部	1	1	3	1	5
宮古支部	–	–	–	–	–
もりおか	2	41	10	8	59
北上支部	1	5	0	1	6
宮城県支部	2	33	14	5	52
ふくしま	2	43	0	4	47
郡山支部	3	39	0	8	47
二本松	–	–	–	–	–
白河支部	1	0	0	2	2
会津支部	0	0	0	0	0
奥会津連合	–	–	–	–	–
いわき支部	0	0	0	0	0
福島県相双支部	–	–	–	–	–
南相馬	–	–	–	–	–
茨城県	3	29	19	4	52
栃木	–	–	–	–	–
群馬	7	46	16	17	79
吾妻	1	20	2	2	24
埼玉	5	152	47	35	234
千葉県	7	64	18	28	110
東京	11	298	1	55	354
奥多摩支部	7	93	66	26	185
神奈川支部	7	69	20	25	114
新潟県	–	–	–	–	–
佐渡支部	–	–	–	–	–

富山	3	47	17	5	69
石川	2	45	11	5	61
福井県	1	4	0	1	5
長野支部	2	36	2	4	42
軽井沢支部	1	0	0	1	1
諏訪支部	1	3	2	2	7
木曽支部	1	6	9	2	17
伊那谷支部	0	0	0	0	0
甲府支部	1	30	1	2	33
富士山麓支部	1	6	4	2	12
東富士	–	–	–	–	–
沼津支部	1	19	0	2	21
南富士支部	2	44	5	3	52
南伊豆	0	0	0	0	0
静岡支部	1	8	0	3	11
遠江	3	29	11	12	52
愛知県支部	14	144	78	34	256
岐阜	–	–	–	–	–
三重	5	37	39	9	85
奈良支部	2	45	8	4	57
和歌山県支部	0	0	0	0	0
滋賀	4	21	22	8	51
京都支部	7	109	25	17	151
大阪支部	17	265	45	74	384
ひょうご	5	52	34	12	98
NPO法人日本野鳥の会鳥取県支部	3	22	2	3	27
島根県支部	2	5	2	2	9
岡山県支部	3	59	21	8	88
広島県支部	4	39	23	6	68
山口県支部	3	30	5	3	38
香川県支部	2	61	13	3	77
徳島県支部	4	42	2	4	48
高知支部	4	21	23	4	48
愛媛	8	42	23	11	76
北九州支部	4	51	8	4	63
福岡支部	5	64	20	12	96
筑豊支部	3	24	1	3	28
筑後支部	3	23	9	3	35
佐賀県支部	2	14	2	3	19
長崎県支部	–	–	–	–	–
熊本県支部	6	73	14	7	94
大分県支部	0	0	0	0	0
宮崎県支部	4	66	75	11	152
鹿児島	3	69	41	10	120
やんばる支部	–	–	–	–	–
石垣島支部	–	–	–	–	–
西表支部	–	–	–	–	–
全国	214	2803	873	549	4225

備考：-は保険の申請がなかったことを示しています。

（普及室）

◆普及室からのお知らせ

■今年度の探鳥会リーダーズフォーラム、参加のラストチャンス！■

今年度の探鳥会リーダーズフォーラムは、愛知県名古屋市にて 1 月 20 日(土)～1 月 21 日(日)に開催します。12 月 15 日（金）の締め切り日まで、あと数日に迫っております。みなさまのご参加をお待ちしております。

探鳥会リーダーズフォーラムとは…
全国の支部の探鳥会に関わっているみなさまが集まって、探鳥会についてのノウハウの情報交換や、支部の運営に関する課題を共有して相談する催しです。

◆◆◆実施概要◆◆◆
＜時　期＞　2018 年 1 月 20 日(土)13:00
～21 日(日)12:00
＜主　催＞　（公財）日本野鳥の会　普及室
＜旅行実施＞　（株）南海国際旅行
＜会　場＞　邦和セミナープラザ
（愛知県名古屋市）
＜対　象＞　支部、連携団体の探鳥会に関わっている方
＜定　員＞　50 名（定員になり次第締め切り）
＜参加費＞　10,000 円（1 泊 2 日）
＜プログラム＞
1 日目　13:30　オリエンテーション
ワールドカフェ「探鳥会について話そう（仮題）」
15:00　アイスブレイキング
15:30　全体会
16:00　第 1 分科会
18:00　チェックイン、休憩
18:30　夕食
19:30　懇親会
2 日目　7:30　朝食、チェックアウト
8:45　第 2 分科会
10:15　休憩、移動
10:30　全体集会
12:00　終了
＜お申込み＞
■申込方法：下記の申し込み専用サイトからお申込ください。
https://www.pac-sys.net/nmes-nankai/entry/?tanchou-kantou2018
もしくは、件名に「リーダーズフォーラム申し込み」と記入し、（1）～（5）までを明記の上、tancho-staff@wbsj.org までお送りください。
（1）お名前　（2）ご住所　（3）電話番号　（4）メールアドレス　（5）希望分科会 A、B から第 2 希望まで選択（A-①・A-②・A-③）（B-①・B-②・B-③）

■申込締切：　2017 年 12月15日（金）（定員になり次第締切）

■フォーラム全般についてのお問い合わせ：
（公財）日本野鳥の会　普及室　堀本、井上、箱田
〒141-0031
東京都品川区西五反田 3-9-23 丸和ビル
Tel：03-5436-2622
Fax　：03-5436-2635

▲昨年の様子

◆◆◆分 科 会◆◆◆

20日　分科会Ａ（1日目）

A-①「参加者から支援を引き出す！ツバメのねぐら入り観察会の工夫」　堀本理華（普及室）

鳥がいない時期の骨休み企画として人気が出てきたツバメのねぐら入り観察会。実は、その参加者はほとんどは会員ではない一般の方。そして、年々その参加者の数は増加の一途をたどっており、最近では会員増やグッズ販売の機会としても見直されてきています。

この分科会では、非会員が多く集まるツバメのねぐら入り観察会で、どうしたら参加者から入会や寄付などの支援を引き出すことができるかその工夫について考えてみたいと思います。

A-②「ヤング探鳥会は支部に何をもたらすのか？人材発掘？先行投資？会継続？」　石亀明（東京）

３年前、東京と大阪の２支部だったヤング探鳥会の開催支部は、現在では、栃木、東京、埼玉、滋賀、京都、大阪、奈良、岡山に加え、今年度は愛知、佐賀が加わり 10 支部にまで広がってきました。これまでリーダーズフォーラムでは、開催支部拠点を増やすことを主軸に、支部同士の交流や情報交換を行ってきました。今回の分科会では、交流の段階からもう少し踏み込んで、ヤング探鳥会の目指すべき方向性の確認や共通課題の抽出などをおこないたいと思います。

A-③「野鳥の会育ちの子供たちが社会を変える」　笠原逸子（神奈川支部）

支部や財団の中で、子どもを対象とした事業を行うためにはどのような環境が必要なのかについて考えてみたいと思います。

東富士支部で長年取り組んできた「キッズ」の取り組みをご紹介いただき（予定）、子どものころから支部の探鳥会で育ち、現在では支部の活動を支えている方からご自身の体験談をお聞きします。

21日　分科会B（2日目）

B-①「お試し会員を増やそう！探鳥会の進め方」　樋口公平（神奈川支部）

現在全国で展開中の「会員を増やすための探鳥会」。「参加者の中からなるべく多くの方にお試し入会してもらいたい」が全国の皆さん共通の気持ちだと思います。少しでも多くの方にお試し会員になってもらうにはどうすればよいのか。ここでは営業の視点で心の流れをウォッチングする「マインドフロー」という方法を提案します。これらがたたき台となり、各地で色々な方法が確立していくとうれしいです。

B-②「さて困った、野鳥の会の底力　～サギ調査の課題を解決する～」　新實豊（愛知県支部）

愛知県支部が行っているサギコロニー調査。実はこの調査を始めた当初、大きな課題にぶち当たりました。分科会ではその課題を皆さんならどう解決するかを考えてみたいと思います。実際に愛知県支部であったケースを題材にした設定の中で、参加者同士で議論して解決策を導き出します。

B-③「葛西臨海公園オリンピックからラムサールへ～登録後の利活用を考えよう～」　落合はるな（東京）

かつてオリンピック会場問題で揺れた葛西臨海公園（東京都江戸川区）。現在は開発の危機は去り、日本野鳥の会東京による、ラムサール条約登録の運動が行われています。

この分科会では、ラムサール条約に登録されたフィールドの保全と利用に対して、日本野鳥の会の会員のネットワークを生かしてどんなことができるか考えていきたいと思います。

◆今月の購読者

探鳥会スタッフ通信 12 月号の電子メール版の購読者数は、先月より 4 名増えて 819 名です。各支部の購読者数は、「財団からの配信者数」と「支部からの転送による配信者数」の合計です。

表 3. 探鳥会スタッフ通信 12 月号電子メール版の購読者数（2017 年 12 月 8 日現在）

支部	購読者数
オホーツク支部	6
根室支部	0
釧路支部	2
十勝支部	1
旭川支部	3
滝川支部	1
道北支部	1
江別支部	0
札幌支部	4
小樽支部	3
苫小牧支部	2
室蘭支部	5
函館支部	0
道南桧山	1
青森県支部	1
弘前支部	5
秋田県支部	3
山形県支部	4
宮古支部	1
もりおか	4
北上支部	2
宮城県支部	39
ふくしま	4
郡山支部	1
二本松	1
白河支部	2
会津支部	2
奥会津連合	0
いわき支部	1
福島県相双支部	0
南相馬	0
茨城県	22
栃木	59
群馬	24
吾妻	1
埼玉	38
千葉県	21
東京	65
奥多摩支部	48
神奈川支部	25
新潟県	2
佐渡支部	1
富山	3
石川	29
福井県	10

支部	購読者数
長野支部	1
軽井沢支部	1
諏訪	7
木曽支部	1
伊那谷支部	1
甲府支部	4
富士山麓支部	0
東富士	0
沼津支部	3
南富士支部	3
南伊豆	2
静岡支部	2
遠江	9
愛知県支部	45
岐阜	5
三重	19
奈良支部	2
和歌山県支部	4
滋賀	19
京都支部	30
大阪支部	26
ひょうご	16
NPO法人日本野鳥の会鳥取県支部	10
島根県支部	12
岡山県支部	28
広島県支部	9
山口県支部	3
香川県支部	6
徳島県支部	6
高知支部	1
愛媛	15
北九州	11
福岡支部	12
筑豊支部	21
筑後支部	5
佐賀県支部	5
長崎県支部	1
熊本県支部	14
大分県支部	4
宮崎県支部	4
鹿児島	3
やんばる支部	0
石垣島支部	1
西表支部	1
合計	819

（普及室）

◆探鳥会スタッフ通信（電子メール版）の無料配信について

探鳥会スタッフ通信は、支部の探鳥会スタッフならどなたでも受信できます。（無料です）
ご希望の方は、「探鳥会スタッフ通信希望」と明記のうえ、①支部名 ②担当している探鳥会名 ③お名前 ④ご住所 ⑤電話番号 ⑥メールアドレス（パソコンやスマートフォンのアドレス）を記入し、tancho-staff@wbsj.org へお申し込みください。バックナンバーとともにメール版を送信いたします。
配信を希望されない、メールアドレスの変更などについても、tancho-staff@wbsj.org までお知らせください。

★編集後記

何かと忙しい 12 月、みなさまはいかがお過ごしですか？
「会員を増やすための探鳥会」も各地で開催されておりますね。私も何度か参加させていただきました。参加者の方々が楽しそうに鳥を見ている様子に立ち会えるのは、嬉しいものですね。リーダーのみなさまが笑顔でいきいきと解説されていたのも、とても印象に残っています。

今年のリーダーズフォーラムの参加締め切りは 12 月 15 日（金）で、あと数日です！有意義な会となるよう、準備をしております。みなさまのご参加をお持ちしております。

今年のスタッフ通信の配信は、今回が最後です。いつも「探鳥会スタッフ通信」を読んでくださり、ありがとうございます。
どうぞ、よいお年をお迎えください。

（普及室／井上奈津美）

訂正）11 月号 10 ページ「女子探鳥会 in 中池見湿地」につきまして、下記の誤りがありました。お詫びして訂正いたします。
＜誤＞
【参加者】32 名（うち一般参加 27 名）
【一般／会員】一般：17 名、会員：7 名、不明：7 名
＜正＞
【参加者】31 名（うち一般参加 24 名）
【一般／会員】一般：24 名、会員：7 名

日本野鳥の会
探鳥会スタッフ通信 第 57 号
◆発行
（公財）日本野鳥の会　2017 年 12 月 13 日
◆担当
普及室　普及教育グループ
〒141-0031
東京都品川区西五反田 3-9-23 丸和ビル
TEL：03-5436-2622
FAX：03-5436-2635
E-mail：tancho-staff@wbsj.org